

シリーズ「産業カウンセラーの現場から」相談者の思いに共感して伴走する」は、今回で終了です。執筆者総数約30人、掲載回数50回、1年に及ぶ長い旅路でした。執筆者の皆さんにはご多忙な中、その合間を縫ってお書きいただいたことに感謝と敬意を表します。また、以前のシリーズでも執筆された方

ナビゲーター

や今回初めて執筆された方、今シリーズで複数回執筆された方もおられ、当協会中部支部の会員の幅の広さと多様性を感じました。執筆された方お一人お一人の文章は自己の経験によるものが多く、執筆者自身、執筆中にその時の光景が目には浮かぶこともあったのだと思います。

タイトルに含まれる語で最も多かったの

産業カウンセラーの現場から

回

50

人生に影響を与えるカウンセラー

は、「傾聴」でした。産業カウンセラーにとって最も基本的であり、かつ最も難しいのは「傾聴」だと思います。頭では理解できても実践では出来ないものであり、筆者自身も常に反省しています。執筆者の中にも、協会の「産業カウンセラー養成講座」での傾聴の研修を思い出された方、その大切さを改めて認識し、それが人生の大きな転換点になったという方もおられました。

キャリアコンサルタントによる就職支援にあつては、特に就職の難しい方に対しての細かい支援と見守り、適切なアドバイスの記述は、キャリアコンサルタントはクライアントにとってのまさに伴走者であると実感しまし

人生100年時代の伴走者

た。産業カウンセラー・キャリアコンサルタントは、クライアントの最も苦しい時や岐路にある時に会う、他者の人生に影響を与える人で、現代のような複雑化した社会では、なくてはならない存在・職業だと実感しました。

今回のシリーズが、「カウンセラー」という語感に伴う負のイメージを払拭し、「みんな困った時には気軽に相談していいのだ」というオープンなイメージを皆さんに持つていただき、一人で悩んでいる人が少しでも減れば、このシリーズは大きな価値があったのだと思います。話し合うことのできる仲間の存在は、個人の苦しみを半減し、楽しみを倍増

します。

人生100年時代、特に若い人々にとつては働く時間はさらに長くなるので、働くことによる意義や生きがい、個人の成長は今後の大きな課題です。どんな仕事に就くのか、自分の専門分野を何にするか、どのような働き方をするかは、人生の最も大きな課題の一つだと思います。その間に迷ったり悩んだりすることはどんな人でもあり得ます。そんなときに伴走者として支援する産業カウンセラー・キャリアコンサルタントの役目はますます大きくなります。会員一人一人のレベルアップ、自己研鑽が必要だと思います。

4月からは、新しいタイトルのもと、産業カウンセラー協会の会員の活躍を継続して掲載いただきます。

【日本産業カウンセラー協会中部支部会員
社会保険労務士 中小企業診断士 杉本和
夫】
〓おわり〓

